

無名塚 17 号墳の発掘調査で 古墳時代の鏡が出土しました

令和 7 年 6 月 13 日付け報道提供資料でお知らせしたとおり、堺市では 6 月 16 日から「無名塚 17 号墳」（堺市北区百舌鳥梅北町 5 丁）の発掘調査を実施していましたが、7 月 8 日に墳丘より副葬品とみられる古墳時代の直径約 12cm の鏡が出土しました。

1 「無名塚 17 号墳」の概要

百舌鳥川の北側に所在する古墳時代中期の古墳。発掘調査前は、墳丘のうち一辺約 10m×約 13m、高さ約 2.4m の四角錐台を呈する一部が現存していた。古墳本来の規模や形は不明。

2 出土した鏡

材 質：銅等

年 代：古墳時代

法 量：直径 12.2cm 重量 260g

内 容：鏡の文様等は調査中。古墳から出土する鏡は副葬品として用いる例が多いことから、無名塚 17 号墳の副葬品である可能性が高い。ただし、出土直後に墳丘の断面を精査した結果、鏡を納めていたと考えられる埋葬施設等の遺構は確認できず、鏡を納めていた場所や状況は不明。



無名塚 17 号墳から出土した鏡



鏡の出土時に掘削した範囲

3 調査成果等

今回の発掘調査で副葬品とみられる鏡が出土したことは、今後、無名塚 17 号墳の百舌鳥古墳群における位置づけ等を考える上で、貴重な成果である。出土した鏡は、令和 8 年度にかけて鏡の表面に布などの有機質が残っていないか確認した上で、文様等の詳細を調査し、今後の公開・活用のために保存処理を実施する予定。

これまでの発掘調査等により鏡が出土した古墳は、百舌鳥古墳群では無名塚 17 号墳のほかに 5 基（塚廻古墳、カトンボ山古墳、大塚山古墳、城ノ山古墳、湯の山古墳）ある。このうち無名塚 17 号墳（直径 12.2cm）と同規模の鏡が、塚廻古墳で 2 面（直径 13.9cm／13.3cm）、大塚山古墳で 2 面（直径 13.1cm／12.7cm）、湯の山古墳で 1 面（直径 11.5cm）の計 5 面出土している。

4 その他

記録保存のための発掘調査は、当初の予定どおり 7 月 8 日で終了した。

問
い
合
わ
せ
先

担 当 課：文化観光局 歴史遺産活用部 文化財課
電 話：072-228-7198
ファックス：072-228-7228